



## 世界初牡蠣養殖の父 宮城新昌翁頌徳碑

### 【碑文・左】

宮城新昌が事業化した垂下式カキ養殖法とは杉丸太を組み合わせて筏をつくり浮きだるをもって海上に浮かべる。

この筏に稚貝の付いた貝がら(付着器)をわら縄に通して海中に垂下する方法です。

付着器と付着器の間には細い竹の管を通して一定の間隔を取る。夏期に採苗した稚貝を翌年3～4月ころ垂下すると秋には出荷できる。

カキは常時海中にありプランクトンを摂取することができるので、以前の地捲式などの養殖法に比べるとはるかに収穫高は良いとされ、世界においても垂下式養殖法は評価が高いとされている。

### 【碑文・右】

カキ養殖界の偉人宮城新昌プロフィール

明治17年5月14日 沖縄県国頭郡大宜味村根路銘で生まれる

明治38年3月 沖縄県立農林学校卒業

昭和2年 垂下式カキ養殖法を考案する

昭和14年－30年 沖縄県・宮城県・千葉県において養蠣事業を経営する

昭和42年8月15日 永眠

### 宮城新昌の口癖

カキは滋養がある豆腐のように安く、手軽にたべられるようにしたい。